

# かねやま絆の森だより 2018.05

## 【第21回かねやま絆の森 現地活動】

5月19日(土)現地活動は、参加者総勢70名で前日までの大雨にも負けず、元気に取り組みました。

オープニングで、前回、山形交響楽団と金山中学校吹奏楽部の交流事業で植樹する予定だったイタヤカエデの苗を、各組織の代表者の手により無事に植えたことをご報告します。



参加組織(70名)敬称略: アイジー工業(株)、国土防災技術(株)、(株)荘内銀行、(株)ニューテックシンセイ、(株)メドテック、(株)山形丸魚、金山町森林組合、最上漁業協同組合、ふるさと山の会、やまがた公益の森づくり支援センター、山形県、金山町、(有)三英クラフト、山形ゼロックス(株)

## 【森の健康診断】

現在の育成状況を調べ、未来のかねやま絆の森を予想してみました。

植樹して9年目の杉の樹高や胸高直径を測定し、現在の育成状況を確認しました。実際に三英クラフトでは、林齢85年になると伐採し出荷します。私達のかねやま絆の森は0.8ヘクタールあり、2,400本の苗を植えて、85年後に残るのは320本、金山型住宅8棟分の材が出荷できるそうです!



## 【除伐、枝打ち】

搬出した材を、地域通貨に換えて、「地域のためにどんなギフトができるか」使い道を考えました。



ありがとう、金山町森林組合さん



13の組織から年齢や職業もさまざまな参加者7~8人のランダムなグループで楽しく話し合いました。

午前、計測したデータを使い午後から「山形県スギ林分収産予想表による生長予測」を使って生育状況を調べてみました。現在、平均樹高が4.7mあり、土地の性質が良く生育状況も順調に育っていることが分かりました。これが林齢75年になると34m、だいたい10階建マンションと同じ高さまで育つという予測結果ができました。



午前で搬出した木材は金山町の薪ステーションに買い取ってもらい地域で使える商品券に換えました。午後のワークショップでは参加者が使い道について自由に発想し、SDGsのどんなテーマにつながるかをグループでまとめて発表しました。様々な組織が楽しく交流しながらSDGsに触れることができ、新しい間伐材の活用方法としても幅広い可能性を感じました。

## 【食育】生態系といのちの循環を体験

お昼から、おさかなプロジェクト続編で参加企業の(株)山形丸魚様より県の魚サクラマス为主题とした「食育」を行いました。生態系を学んだあとは山形丸魚と神室少年自然の家が合同プロデュースした「サクラマス定食」を、命の恵みに感謝しながら美味しくいただきました。



2014年にサクラマスの稚魚を放流して4年、そろそろ海から川を遡上しふるさとへ戻ってくる頃です。展示で並んだのは、川に残った「ヤマメ」と、海へ渡った「サクラマス」。見比べてビックリ!実は、同じ稚魚なんです。



神室少年自然の家では、この企画に賛同いただき、サクラマスの館かけをメインに地産地消、地元のものをつんだんに取り入れたメニューを提供いただきました。



今回の活動をSDGsのアイコンでまとめてみると



## 広げよう!SDGsの輪

山形ゼロックスは、今年からCSRをSDGsに照らし合わせ実践し、地方からその姿を発信します!